

# 緩和ケアだより

第10版  
平成28年9月22日  
公立八鹿病院緩和ケア病棟



今年も猛暑が続きましたが、日に日に秋の深まりを感じる今日この頃です。日本の美しい四季の変化を感じる一方で、容赦なく襲いかかる自然の力に時に人間の無力さを感じます。しかし、どんな困難も乗り越える力をもっているのもまた、人であると思います。

常に「いのち」と向き合っている私たちです。日々、感謝の気持ちを忘れず、1日1日を大切に過ごしたいと思います。

## 七夕会を終えて

7月5日に七夕会を行いました。「七夕の歌」で始まり、患者様・ご家族と一緒に「きらきら星」のハンドベル演奏、看護学生さんからの七夕クイズなどを行いました。その後、お茶やお菓子を頂きながら、折り紙で飾りを作り、三本の竹が一杯になるほど、華やかな笹飾りが完成しました。「短冊なんて書くのは何年ぶりかしら」と言いながら、皆さんそれぞれに様々な願い事を書いてくださいました。

梅雨の合間に時々、太陽の光が差し込む、とても和やかな時間を過ごしました。



## お月見会を終えて

雨が続く中でしたが、花や秋の七草を飾ったフロアで、9月13日にお月見会を行いました。職員による「うさぎ」や「月の砂漠」のハンドベル演奏を聞いていただき、患者様やご家族の方々と「虫の声」など、秋の唄を一緒に歌いました。

「お月見」をモチーフにした壁飾りを作り、きなこ・みたらし・あんこの三色団子を味わいました。「遠くから来た甲斐がありました。とっても楽しかったです。」と言って帰られるご家族もあり、患者様やご家族と共に秋の訪れを感じる時間が過ごせました。



## 緩和ケアチームの活動

### 音楽療法士

音楽療法士の竹末千賀子です。

八鹿病院では2000年より音楽療法士が常勤しており、緩和ケア病棟では開設当初から音楽療法をおこなっています。病棟ホールのグランドピアノや、ご希望があれば病室にもうかがって、歌や音楽をお届けしています。

患者さんやご家族からのリクエストを中心に、ときにはスタッフからの曲をおりませながら、共にお過ごしいただけるひとときになればと思っています。

音楽は記憶と結びつきやすいと言われています。音楽を通して「その人らしく」お過ごしいただけるよう、お手伝いさせていただきたいと思っています。



### 理学療法士

理学療法士の田原邦明です。

理学療法士は、いわゆる“リハビリ”を担う職種の一つであり、身体を動かすことによって心身の苦痛を少しでも和らげ、今出来ている生活動作が少しでも長く出来るように、たとえ出来なくなっても別の方法を一緒に考えていくことを目的に関わり続けていきます。

緩和ケアにおいても通常のリハビリと同様に様々な運動を行います。大きな違いとして、「自立（自力で出来ること）」を促すだけでなく、「自律（自分で決める）」ということをより大切にして関わろう心がけています。

患者様やご家族が望まれることを第一に、少しばかりのリハビリの方法を散りばめて、よりよい生活を送っていただけるように、他のチームスタッフと協力して支えていけたらと思っています。



～編集後記～

第9版に続いて、緩和ケアチームの活動を紹介させていただきました。

先日、患者様のご家族によるオカリナと音楽療法士によるピアノでのミニコンサートを行いました。皆さんは、オカリナの音色をお聞きになったことがありますか？ 優しく心にしみる音色に、みんなが引き込まれていきました。音を奏でる楽器には色々な種類があり、それぞれが個性豊かな響きがあります。音楽と人、今も昔も深いつながりを感じます。

文責：谷口